

令和五年度

事業報告書

「忠恕・敬愛・感謝」

目 次

I 総務課	1
II 事業部	2
〔1〕 各種委員会・会議等	2
〔2〕 研修	3
1. 外部研修	3
2. 内部研修	3
〔3〕 年間行事	4
〔4〕 実習・見学等	4
1. 実習・見学受け入れ	4
2. 一般の見学	5
〔5〕 ボランティア	5
〔6〕 医務室	5
〔7〕 栄養	7
〔8〕 リハビリ	8
〔9〕 特別養護老人ホーム	9
1. 在籍	9
2. 退居	10
3. 新規入居	10
4. 入居申し込みと待機者状況	11
5. 入院実績	11
6. 要介護度推移	11
7. 平均年齢推移	11
8. 収入段階、利用料	12
9. 外出	12
10. 外泊	12
11. 面会	12
12. 相談員の業務を振り返って	12
13. その他	12
14. 介護支援専門員の業務を振り返って	13
15. 介護	13
〔10〕 デイサービス	15
〔11〕 ショートステイ	16
〔12〕 居宅介護支援事業所	17

1. 総務課

〔1〕 【自衛消防訓練等】

1. 第1回目

日 時 令和5年5月16日 午後3時30分から午後4時30分
内 容 総合訓練（避難・消火・夜間想定）
参加人数 約13名（職員・入居者・利用者）
届出関係 川越消防署届出

2. 第2回目

日 時 令和5年10月20日 午後3時30分から午後4時30分
内 容 総合訓練（避難・消火・夜間想定）
参加人数 約25名（職員・入居者・利用者）
届出関係 川越消防署届出

3. 第3回目

日 時 令和5年11月 5日 午前7時30分から午前10時00分
内 容 令和5年度川越市総合防災訓練（川越市総合卸売市場他）
要避難者（車椅子の方）の搬送及び福祉避難所開設訓練
参加人数 約9名（防災委員）

〔2〕 【職員健康診断】

1. 第1回目

日 時 令和5年8月22日・23日 午前9時から午後0時
内 容 特定業務従事者健康診断（夜勤者）
受診人数 81名
協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院
健診内容 既往歴・業務歴・自覚症状・他覚症状・身長・体重・腹囲・視力・
聴力・胸部X線撮影・血圧測定・貧血検査・肝機能検査・血中脂
質検査・血糖検査・尿検査・心電図検査

2. 第2回目

日 時 令和6年2月19日 午前9時から午後0時
内 容 特定業務従事者健康診断（夜勤者）
受診人数 44名
協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院
健診内容 既往歴・業務歴・自覚症状・他覚症状・身長・体重・腹囲・視力・
聴力・胸部X線撮影・血圧測定・貧血検査・肝機能検査・血中脂
質検査・血糖検査・尿検査・心電図検査

3. ストレスチェック

日 時 令和5年10月

内 容 全職員対象

受診人数 84名

協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院

II 事業部

〔1〕各種委員会・会議等

1. 入居検討委員会

申込者に対しての検討を適正に行い、概ね待機順位通りの検討を実施できた。

2. 入居判定会議

待機者リストに準じて、弊所サービスの利用率に関わらず公平に判定順位を決定し入居判定会議を実施した。

3. 医療的ケア安全対策委員会

認定特定行為業務従事者登録を行った介護職員が、看護師の指導にて安全に医療的ケアが行えるよう、その仕組みや方法について検討した。

4. 衛生管理委員会

産業医の指導の下、入居者様や職員の健康管理について検討を行った。
施設内巡視の内容を見直し、巡視結果を評価（採点）することで、問題点を顕在化させ職場環境の改善に努めることができた。

5. 感染症対策委員会 12回

6. 防災委員会 11回

7. 苦情対策委員会 12回

8. 事故・身体拘束防止委員会

委員会では、それぞれの事故についての原因究明と再発防止に努め、全職員が統一した認識を持って事故防止に取り組めるよう、施設内で起きた全ての事例を、全ての部署で確認できるようにした。

9. 栄養管理委員会 12回

10. 行事委員会

新型コロナウイルス感染症対策として、「八瀬の里まつり」は各階で屋台レクとして行う。「敬老会」は、各階にて表彰式を実施した。

11. 褥瘡対策委員会

現在褥瘡が発症している方の状態報告と、褥瘡になる可能性がある方について、看護師と栄養士、介護職と協同して改善策を検討した。

12. 排泄委員会

排泄習慣の確認や排便状況の情報収集を行った。おむつ使用量の減少や、摂取水分量の増加、下剤使用量の減少など、一定の成果が見られた。オムツ対応だった方をトイレに誘導する機会も増えている。陰部洗浄も積極的に行った。より良い排泄介助、より良い介護の提供へと取り組んでいく。

13. 看取り介護委員会

看取り介護委員会を通じて、各フロアでの看取り介護の振り返りが共有できるようになった。研修に於いては、看取り介護対象者の担当者による事例発表や、リモートによる外部研修を今年度も取り入れた。

〈令和5年度 看取り介護：5名〉

14. 研修委員会 新型コロナウイルス感染防止のため中止

〔2〕研修

1. 外部研修

研修日	研 修 名	参加人数
8月25日	安全運転管理者等講習	1名
9月26日	令和5年度埼玉県老人福祉施設協議会 施設長研修	1名
10月12日	雇用管理責任者講習	1名
11月2日	介護施設における看取ケア研修（管理者編）	2名
11月29日	介護施設における看取ケア研修（実務担当者者編）	4名
1月29日	OCN かわごえエリア MTG	1名
1月30日	現役ケアマネに聞く！紹介したくなるデイサービス（後編）	1名
2月28日	令和5年川越市ケアスキルアップ研修	1名
3月21日	地域共生社会の実現に向けた地域づくりを推進するために	2名
3月28日	介護報酬改定のポイントと対策	1名
合計		15名

2. 内部研修

研修日	研 修 内 容	参加人数
4月1日～	個人情報保護法研修	61名
4月1日～	排泄研修	67名
5月1日～	高齢者虐待防止研修	67名
5月15日～	看取り介護職員研修（R5. 5.15 ～ R5. 8.31）	64名
6月1日～	褥瘡予防研修	61名
6月1日～	感染症予防研修	66名
6月1日～	栄養研修	64名
1月1日～	感染症予防研修	59名
7月1日～	リハビリ研修	66名
8月1日～	BCP研修	63名
10月1日～	身体拘束廃止研修	58名

11月1日～	糖尿病研修	68名
11月1日～	安全管理体制（事故防止）研修	63名
12月13日	吸引（口・鼻からの吸引）研修	2名
12月31日	吸引（口・鼻からの吸引）研修	1名
1月1日～	感染症予防研修	59名
1月4日	感染症対策・標準予防策の基礎知識（入職時）	3名
1月26日	感染症対策・標準予防策の基礎知識（入職時）	2名
2月1日～	褥瘡予防研修	64名
3月1日～	会計研修	58名
3月7日	デイサービス入浴研修	7名
合計		1,023名

〔3〕年間行事

月 日	行事名	行事内容
4月上旬	お花見	水上公園や施設周辺を散歩し写真に収めた。
6月7日 6月8日 6月15日	収穫祭 （梅狩り）	施設周辺のゴルフコース内にて、職員が枝をおさえて入居者様に梅を収穫して頂いた。普段静かな方からも歓声や笑顔が見られた。
9月1日	文化祭	余暇活動の中で作成した作品を展示し、入居者様にやりがい達成感を感じて頂いた。
9月9日	敬老会	表彰対象のご家族を招待し、フロアごとに敬老会を開催した。
9月18日	敬老祝い表彰	川越市最高年齢の入居者の方へ、川越市長・川越市役所職員4名・読売新聞社1名来所され、ご家族同席にて表彰された。取材・表彰の様子は、翌日の読売新聞に掲載された。
10月19日 10月24日 10月27日	屋台レク	八瀬の里祭りの代わりとしてフロアごとでの屋台レクを企画した。模擬店を開催し、賑やかなお祭り気分を味わって頂いた。
12月13日 12月19日 12月21日	クリスマス会	フロアごとにクリスマス会を企画（職員と入居者様と一緒に歌や踊り・サンタからのプレゼント・パフェを調理）し入居者様に楽しんで頂いた。

〔4〕実習・見学等

1. 実習・見学等受入

新型コロナウイルス感染拡大の伴い、実習、見学等受け入れは自粛とした。

2. 一般の見学

特養での見学については、一般見学は自粛継続としたが、ショートステイ個室見学や、施設内設備の見学説明は実施した。

〔5〕ボランティア

新型コロナウイルス感染症対策として今年度も受け入れを中止した。

〔6〕医務室

主任 轟木まり子

『健康管理』に伴う基本方針に基づき、入居者様および利用者様に対し健康管理および医療処置を実施する。

「健康管理」に伴う基本方針

- ・ 入居者様の生活に障害となる疾病や症状の、健康面からの管理
- ・ 入居者様の快適な生活をサポート
- ・ 他の職種間との協働で健康管理サービスを提供
- ・ 入居者様の意思を尊重し、入居者の健康管理サービス（医療処置）の提供

1. 予防医療

ア. 入居者様の健康状態の把握

嘱託医による回診を月1回実施。

イ. 医療機関および医師による検診の実施

(1) 健康診断の実施

入居者の新型コロナウイルス感染対応となり、健康診断を見合わせとなる

ウ. 流行性疾患蔓延の予防

(1) インフルエンザ予防接種の実施：令和5年11月16日 入居者：84名

感染陽性者：0名

(2) COVID-19 ワクチン接種の実施：令和5年8月26日 入居者：81名

感染陽性者：16名（2階12名、3階8名、4階8名）

エ. 感染の予防

(1) インフルエンザ、ノロウイルスの流行期

→職員全員マスク着用・検温を実施

職員、入居者に感染症が疑われる場合は

→職員玄関に感染状況を掲示し、職員へ周知

入居者の早期居室対応、病院受診

(2) 疥癬

→発症フロアの職員エプロン・手袋を使用

感染症が疑われる入居者、職員は病院受診

感染陽性→定期的に皮膚科受診（陽性者：4名）

感染者に居室対応、入居者・職員の衣類等は感染症対応の洗濯で実施

感染者の居室・フロアの消毒、清掃

職員玄関に感染状況を掲示し、職員へ周知

(3) 感染症対策委員会を定期的に開催し、情報を共有

オ. 新型コロナウイルスワクチン感染者対応

(1) 発熱者の受診対応 PCR 検査陽性：入居者 20 名（入院：8 名）

→感染陽性者：居室対応、居室内はレッドゾーン対応

ユニットフロア：イエローゾーン対応（ 2 ユニット ）

ユニットキッチン内：グリーンゾーン対応

レッドゾーン対応時は、フェイスシールド着用、エプロン、ディスポ手袋
使用

職員は、ダブルマスク実施

至聖病院医師へ新規発熱者・感染者の発熱状況報告

必要時、至聖病院医師指示による点滴実施

(2) 感染者状態悪化時は至聖病院へ連絡し受診

(3) 感染陽性日を 0 日とし、5 日間ゾーニング対応

(4) 最終感染陽性者の経過で、ユニットのゾーニング解除

(5) 職員玄関に感染状況を掲示し、職員へ周知

2. 治療医療

ア. 的確な症状の把握

(1) 介護職員の報告を把握し、バイタルサインの確認、異常症状発生以前からの状態の確認と変化した全身の状態の観察

(2) 医療機関およびご家族等からの情報は、施設内での情報共有

(3) 必要時に医療機関を受診、定期受診を継続

イ. 症状に適した処置の実施

(1) 症状に応じた対症療法を指示または実施

(2) 配置医の指示を受け、入居者の処置を実施

(3) 医療処置の経管栄養・吸引・外科的・皮膚科的・泌尿器科的処置、湿布、点眼を
実施

ウ. 内服治療への援助

(1) 配置医による定時薬、臨時薬の服薬継続の確認（定期回診）

(2) 臨時薬が処方された際は内容、内服方法を介護職へ説明

(3) 入居者様の状態に応じて、錠剤を粉薬へ調整

エ. 褥瘡の予防

(1) 毎月、第二金曜日に褥瘡予防対策委員会を開催

① 褥瘡発生者、予防者について清潔・栄養・除圧の側面から評価し必要なケア
を検討

② 褥瘡発生者は医師の診察・処置対応し、褥瘡状態を他職種と共有

③ 褥瘡予防者の皮膚の経過観察

3. 入居者の意思を尊重した健康管理サービスの提供
 - ・入居後の健康状態の変化に合わせ、リビングウィルを確認
 - ・入居者、ご家族に確認後、受診・治療・ケア援助
4. 看取り介護への取り組み
 - ア. 看取りの時期について配置医のからの判断を受ける
ご家族が理解されているか相談員、介護職、介護支援専門員と確認
入居者およびご家族の死に関する要望を確認
 - イ. 入居者の状態変化の際はご家族への報告
 - ウ. 入居者の夜間急変時に、看護師は24時間のオンコール体制で対応
 - エ. 提携病院と受け入れの調整
5. 均一な医療サービスの提供
 - ア. 毎朝の申し送りとカンファレンスを随時実施し、入所者様の状態把握や情報を医務内で共有
 - イ. 実施した医療処置、健康状態、受診結果について記録（ケース入力）
緊急時に適切な対応、関係部署との連携
6. 災害・非常時への準備
 - ア. 災害・非常時用保管場所（3階エレベーター前倉庫）に応急処置用品の保管
 - イ. 非常時持ち出し品一覧表を確認、全職員に周知
 - ウ. 応急処置用品は消費期限があるため、数量の検討と物品を見直し

〔7〕栄養科

管理栄養士 主任 山田みゆき

重点目標として、1. 「食べる喜びを、生きる喜びへ」2. 「個人への最適な栄養ケア」3. 「安全安心な食事提供」の三点を挙げ活動を行なった。

1. 「食べる喜びを、生きる喜びへ」

通常の食事では、居室担当職員等と共に検討し入居者様個人に合った食事を提供することができた。イベント食については、季節に合わせた行事食の提供に加え郷土料理を月1回提供し楽しんでいただいた。八瀬の里まつりの代替のイベントである屋台レクは、昨年同様、各フロアそれぞれで工夫を凝らし、入居者様と共に職員も楽しみながら実施することができた。誕生日会等のレクについては、サイボウズを活用した情報発信を行うことができた。

2. 「個人への最適な栄養ケア」

入居者様全員を対象とし栄養ケア計画書の作成を行なった。栄養スクリーニングを行いアセスメントを実施すると共に、リスク別のモニタリングを実施しながら3か月ごとの評価を基にプランの確認や変更を行った。低体重や体重が減少傾向にある方、食事摂取不良や体調不良の方への対応としては、ミールラウンドをとおして各部署と情報を共有し、補食や嗜好・嚥下機能に合った食事を検討し提供することができた。

3. 「安全安心な食事提供」

昨年度に引き続き、感染症を含めた災害に備えるため、八瀬の里BCPに基づき非常食の管理を徹底して行った。感染症発生時の食事提供については、令和5年5月8日より感染症法における新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行したことにより発生時の食事提供方法が変更になったが、委託業者との間で常に取り決めを確認していたため、実際に発生した時の食事提供は混乱なく行うことができた。今後は、感染症発生を含めた非常時の食事提供ルールを定期的に見直し、入居者様が速やかに穏やかな日常を取り戻し、安心して通常の食事を召し上がるように、委託業者を含めた各所と連携を図り、有事に備えたい。

〔8〕リハビリ

特養機能訓練指導員 渡邊 潤

「実践計画」

①生活リハビリ

- ・入居者様の生活リハビリを、介護職とともに支援した。
介護職より褥瘡や皮膚トラブルに対してベッドマットの変更や、臥位・座位のポジショニングの相談を受け、都度対応した。
また、多職種間で話し合ったことを検討し、必要であればユニット会議に参加して意見交換を行った。
- ・入居者様やご家族からの要望を受け、個別で定期的にリハビリを行うケースもあった。
- ・個別機能訓練計画書の作成については、担当の介護職・多職種で確認をとりながら、3ヶ月ごとに見直しを行った。
- ・ご家族に内容説明と同意・ご署名をいただき、入居者様の現在の機能に合ったプログラムを提供できるよう努めた。

②レクリエーション

- ・5月より新型コロナウイルスが感染症法上の「5類」に移行したことで、レクリエーションが行いやすい状況となってきた。
各ユニットに出向いて小集団でゲームを開催したり、施設近隣へ散歩にご案内することができた。
また、お花見・梅狩り・おやつレク・食事レク・屋台レクなどに参加し、入居者様に楽しんでいただけるよう努力した。

- ・目的をもった作業を行うことでやりがいを感じていただくために、季節ごとに全ユニット合同(デイサービスやショートステイも含むことあり。)での創作を行った。1階通路に展示することで、面会に来所したご家族に活動の様子をお知らせすることができ好評だった。
- ・異動後、行事委員会に参加し、秋の文化祭を提案した。
入居者様の余暇活動の発表の場を作ることで、「見てもらうために作る・評価される」という喜びを感じていただけたと思う。
- ・各部署の行事・レクリエーションに参加をし、その都度、撮影した動画や画像を全部署に公開している。
特養・デイサービス・ショートステイの各事業所は、普段接点が少ないのでどんなことをやっているか、なかなか知る機会が無かった。
他部署の活動を知らせることで、施設内の一体感や活性化に貢献できればと思っている。
また、それらの活動を記事としてホームページに掲載していただけるようにした。
入居を考えているご家族、入職希望の方、入居者のご家族、他施設の職員などに八瀬の里の様子を見て参考にさせていただきたいと思っている。
- ・入居者様が八瀬の里で暮らす中で、ただ時間を過ごすのではなく、生活に何らかの「楽しみ」を感じていただけるよう、令和6年度も引き続き努めていきたいと思う。

〔9〕特別養護老人ホーム

生活相談員 遠藤孝治

1. 在籍

3月31日の在籍者は95人となっている。

次に入居して頂く対象者へは、当施設「優先入居に係わる取扱規定」による優先順位に基づき、入居順位検討結果を検討委員会実施月の月末又は翌月月初に送付している。

表1. 令和5年度入居者男女比率(令和6年3月31日現在)

	令和5年度		令和4年度	
	人数	割合	人数	割合
男性	30名	32%	29名	32%
女性	65名	68%	64名	68%
合計	95名	100%	93名	100%

2. 退 居

表 2 に示すように、令和 5 年度の退居者は 28 名であった。

表 2. 令和 5 年度退居者一覧

年 月	退居者数	退居理由
令和 5 年 4 月	2 名	死亡 2 名 (看取り 1 名、病院 1 名)
5 月	2 名	死亡 2 名 (病院 2 名)
7 月	1 名	死亡 1 名 (療養型)
8 月	3 名	死亡 2 名 看護付き多機能 1 名
9 月	4 名	死亡 2 名 (看取り 2 名)
10 月	2 名	死亡 2 名
11 月	4 名	死亡 3 名 (病院 2 名、看取り 1 名) 療養型 1 名
12 月	3 名	死亡 3 名
令和 6 年 1 月	4 名	死亡 2 名 療養型 1 名 転居 1 名
2 月	1 名	死亡 1 名 (看取り)
3 月	2 名	死亡 2 名 (看取り)
合計	28 名	死亡 23 名

表 3. 年度別退居者数の推移 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令 4	0	1	0	2	2	0	0	6	2	1	1	2	17
令 5	2	2	0	1	3	4	2	4	3	4	1	2	28

3. 新規入居

表 4 に示す通り、新規入居者様は 26 名、在宅 11 名、医療機関 13 名、介護老人福祉施設 1 名、介護老人保健施設 1 名となっている。

表 4. 令和 5 年度新規入居者一覧

年 月	新規入居者数	入居前の居所
令和 5 年 4 月	2 名	医療機関 1 名 介護老人福祉施設 1 名
5 月	1 名	老人保健施設 1 名
6 月	2 名	医療機関 2 名
8 月	2 名	医療機関 1 名 在宅 1 名
9 月	4 名	医療機関 1 名 在宅 3 名
10 月	2 名	在宅 2 名
11 月	4 名	医療機関 3 名 在宅 1 名
12 月	1 名	在宅 1 名
令和 6 年 1 月	4 名	医療機関 3 名 在宅 1 名
2 月	2 名	医療機関 1 名 在宅 1 名
3 月	2 名	医療機関 1 名 在宅 1 名
合 計	26 名	

表 5. 新規入居者の介護度と男女構成比

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
入居者(人)	0	0	14	10	2
女性	0	0	12	6	0
男性	0	0	2	4	2

表 6. 年度別新規入居者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令 4	2	2	1	1	1	2	1	2	4	2	0	3	21
令 5	2	1	2	0	2	4	2	4	1	4	2	2	26

4. 入居申込みと待機者状況

令和 5 年 4 月から令和 6 年 3 月の間の新規申込は 68 件であった。医療機関からの入居依頼は前年度とほぼ変わらなかったが、在宅からの申し込みは増加傾向にあった。理由としては、5 類以降後の経済活動再開に伴う介護者の就労が在宅から通勤に変更となり、経済的負担から時間的負担へと変遷した。

5. 入院実績の推移

5 類以降後もコロナ感染に伴う入院に大きな変化はなかった。但し、脳梗塞疑いや肺炎疑いで入院が増加傾向であった。

6. 要介護度推移

表 9 の通り、今年度一年間の介護度は、平均介護度 4.1 となっている。

表 9. 要介護度の推移（令和 5 年度平均介護度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
介 1 (人)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介 2 (人)	0	0	1	1	3	3	3	3	3	3	2	2
介 3 (人)	32	32	32	31	32	32	29	26	24	27	25	25
介 4 (人)	40	40	40	39	37	39	38	43	42	42	42	42
介 5 (人)	24	23	23	25	25	24	26	26	26	24	25	26
令 5 平均介護度	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
令 4 平均介護度	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9

7. 平均年齢推移

入居者平均年齢 87.05 歳（男性：81.42 歳、女性：89.65 歳）

表 10. 平均年齢の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
女性	88.73	88.86	89.09	89.27	89.67	89.85	89.90	89.99	90.3	90.19	90.36	90.53
男性	81.86	81.44	81.26	81.34	81.16	81.24	81.32	81.31	81.39	81.48	81.56	81.64
令5年度全体	86.64	86.63	86.71	86.78	87.00	87.12	87.15	87.27	87.30	87.36	87.42	87.45
令4年度全体	86.83	86.64	86.84	86.88	86.87	86.97	87.29	86.95	86.88	86.58	86.77	86.47

8. 収入段階、利用料

収入段階による利用料は、第2,3段階が51名となっている。

	令和5年度末		令和4年度末	
	人数	構成比率(%)	人数	構成比率(%)
収入段階				
第1段階	0	0	0	0
第2段階	13	14	7	7
第3段階	38	41	36	38
第4段階	42	45	52	55
合計	93	100	95	100

9. 外出

観桜、梅狩り、近隣の散歩を実施。家族との外出については柔軟な対応を行い、感染症対策に留意していただきながら実施していただいた。

10. 外泊

感染症5類以降は、外泊を禁止することなく、感染症対策規定を家族へ説明を行い、外泊希望者は0名であった。

11. 面会

平日（祝日含）時間制限での居室内での面会を再開。面会毎で人数制限を設けたものの、多数の方の面会があった。

12. 生活相談員の業務を振り返って

入居者希望者に大きな変化はなかったものの、社会活動の再開に伴う喫緊での入居希望が増加し、入居申し込み時における待機期間の短縮を申込者より受ける事が多く、公平性を保つ立場から考えると難しい判断に迫られる事が多かった。

5類以降であっても、クラスター発生の状況に大きな変化はなかったものの、医療機関での受診方法が緩和され、適応処方も柔軟となり感染に伴う入居者の重症化は大幅に減少した。

13. その他

(1) 居室の有効利用

ショートステイの稼働率低下に伴い、空床利用率が昨年度と比べて大幅に減少した。

(2) ご家族への連絡

面会再開に伴い、重要事項についての連絡は直接行う事を心掛け、フロアからの連絡も滞りなく実施された。

(3) 新型コロナウイルスワクチン

ご家族へ事前同意書及び説明書を送付し、接種準備を行った。

1 4. 介護支援専門員の業務を振り返って

介護支援専門員 黛 裕子

(1) ケアプラン・カンファレンス・モニタリング

その方の今の課題が何かを各専門職それぞれに意見を述べてもらい、入居者一人ひとりに対し個別性のあるケアプラン作成を行った。

認知症研修の自職場実習として、勉強会開催と事例対象の方のカンファレンスを開催し、各専門職とで突き詰めて検討し学びを深めていった。

看取りの振り返りカンファレンスに於いては、フロア職員全体による意見と多職種とでの振り返りカンファレンスを行う事ができた。

作成したケアプランの情報を共有し、職員全体でモニタリングを行った。

(2) 看取り介護

今年度は、入院中に医師から家族への説明の際に、生活相談員、介護支援専門員も同席しながら看取り介護を進めていき、医療機関との連携が図れた。

毎月の看取り介護のケアプラン会議では、多職種の意見を「サービス担当者会議の要点」に記録し、家族へ配布し状況報告に努めた。

(3) 家族への支援

令和5年5月より面会が再開され、対面で日々の相談に乗ることが出来るようになったが、状況に応じてサービス担当者会議を開催し多職種支援に努めた。

遠方や高齢の為、なかなか面会に来られない家族の方には、日々の様子を電話連絡や計画書を見て頂くことで、家族との情報共有に努めた。

1 5. 介護

2階

主任 遠藤真一

【入居者様が安心できる生活の場の提供】

・介護技術に関して、本人に適したパッドの種類を検討・実施を行った。

状態の変化が著しい退院後の利用者には、入院前の身体状態に戻れる様に食事・水分・リハビリ等を実施し、状態回復に成功した。

・新型コロナウイルスの状況をみて、小規模な食事のけを行い、利用者様の気分転換を図れた。

【入居者様の安全を確保する。】

・HitomeQ（ヒトメク）ライブモニターを活用し、他利用者様の介助中も状況を把握し生活のリズムを観察する事が出来た。ライブモニターの設置されていないフロアとトイレでの転倒事故が発生しており、今後の課題としてユニット会議等で情報の更新を行っている。傷・痣の発見及び転倒事故発生時は、状況と状態を家族に伝え信頼を

得る努力をした。

・入居者様の健康管理は手洗い・うがい・消毒・換気を行い、感染症予防に努めた。特に職員が感染源とならぬ様、細心の注意を払った。

・特養全体で、職員の不足に陥る感染症拡大は無かったが、今後も最新の感染状況と対策情報を更新し、不測の事態に備える。

・令和5年度は、地域での自然災害の発生が無かったが、施設災害マニュアルを職員間で共有できた。

【持続可能な開発目標】

・排泄時間及び利用者一人一人に対して最も適切なパッドを行い、無理・無駄・ムラの減少に努めた。

・不要な電気の消灯、ゴミの削減を普段の生活から実施し、無意識での習慣を身に着ける事が出来た。

3階

主任 北田隆之

(1) 感染症対策 BCP 発動

感染症および災害に対して、職員一同定期的な学びを実施し、気を付けているかと思われるが、体調不良による入院者を数多く出し、コロナウィルスに職員や入居者様が罹患した。約半月の間、対応に迫られたが、収束後は再度、警鐘を発し、三密の回避(密閉、密集、密接)、自己管理(手洗い、うがい、アルコール消毒、検温、マスク着用)等、施設内外において最大限に万全を期し、入居者様、職員、家族の生命の安全確保に努めた。

(2) 【中堅職員育成・指導】

主任・ユニットリーダーを中心に、目標・根拠のある指導・充実した教育を職員に行った。

(3) HitomeQによる事故防止対策】

職員一同、HitomeQの習熟度にバラツキがあり、対応にも時間差が生じている。極力バラツキのないように、且つしっかりと入居者様個々のADL状態によって対応できるように行った。

(4) 稼働率の安定化

施設運営(増収・減収)において介護現場として常に重視していかなければならない事であるが、入院者も多く、また空床利用も少なかったため、安定的な稼働率を維持する事が出来なかった。

4階

主任 大石健太郎

【入居者様、ご家族にとって安心できる生活の場の提供】

入居者様が安心して生活を送って頂けるよう入居者様それぞれに合ったケアプランを作成し質の高いサービスの提供を心掛けた。

体調不良により入院され居室が空いてしまった時は、出来る限り空床利用の受け入れを行った。

新型コロナウイルス等の感染に注意し、施設全体でのレクリエーション活動は行えませんでした。可能な範囲内でフロア毎に季節を感じられるレクリエーションの企画、実践を行った。

【入居者様の安全を確保する】

新型コロナウイルス、インフルエンザ、疥癬などの感染予防については手洗い、うがい、消毒、換気、マスクの着用など感染対策の基本となる予防対策を職員全員で徹底して行った。4階フロア内で3月に新型コロナウイルスの感染がありましたが、初動にてユニット、居室のゾーニングを行い、出来る限りの範囲で感染拡大の防止に努められた。

自然災害などが起きた場合に適切な行動が出来るよう地域と連携し災害時の避難、避難者、負傷者の受け入れなどの訓練を行った。

HitomeQ/ケアサポートシステムを有効に活用し、入居者様の居室内での転倒、転落事故の発生件数減少を目指した。まだ有効的に活用できていない職員もいますので熟練度を高めていきたい。Live 映像の情報を元に、居室内の状況把握、事故の原因の追究、再発防止策の検討などに役立てる事が出来た。

〔10〕 デイサービス

生活相談員 黛 桃子

【安心・安全なデイサービスの運営】

感染予防対策を徹底しご利用者様、ご家族が安心して利用できるデイサービス作りを目標とした。

また、新型コロナウイルス感染対策も緩和されつつある事から、外出の機会を設けるなど、安全に考慮しつつ楽しい空間の提供を心掛けた。

【個別援助の充実】

利用者様、ご家族の多彩なニーズに応え、アクティビティ及び各種体操、入浴に加え、積極的な声掛けの実施、機能訓練指導員の指導の下、個別機能訓練の充実を図った。

【感染予防対策】

施設送迎時は利用者様のマスク着用、同居家族様の体調確認、乗車前の体温測定・手指消毒を行い感染拡大防止に努めた。

来所時、体調確認の実施、午後のバイタル測定を徹底し、ご利用者様の体調の変化に気を付け、実施した。

【今年度新規で取り組んだ事】

- ・パンフレットの変更・更新
- ・ホームページヘレクの様子（創作物）の掲載

【登録者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R4年度	52	52	51	52	47	46	47	46	46	44	45	46
R5年度	44	47	45	46	44	39	41	40	40	40	39	38

[単位：人]

【月間稼働率】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R4年度	77.67	78.06	75.08	75.53	64.62	64.42	68.31	63.48	65.19	65.17	66.03	65.37
R5年度	63.10	66.27	70.06	72.24	69.72	70.44	69.59	68.50	71.26	65.69	62.40	64.86

[単位：%]

- ・下期の稼働率の維持・低下が見られなかった要因とし、パンフレットの更新や初回利用報告書の作成などの新しい活動、新規契約に繋がったと考えられる。
- ・しかし、体調不良による入院、新型コロナウイルスへの感染等により利用停止となる方も多く、大きな伸びには繋がらなかった。

〔11〕ショートステイ

生活相談員 田島和弘

【事業報告】

- ・利用延べ人数：6,524人（対年間目標：△1,141人 対前年度：△242人）
- ・一日あたりの利用者数：17.87人/日（対年間目標：△3.13人/日）
- *平均介護度：男性：3.6 女性：3.8
- *平均年齢：男性：82.74歳 女性：85.93歳

・新型コロナウイルス感染症防止の行うも、令和6年2月に発生してしまう。ロング利用者へ感染が拡大する状態となる。一時帰宅を依頼するも、ご家族より高齢の家族が居る等の理由から帰宅が困難な状況であり施設内で数日間の隔離を実施。

新規受け入れを一時停止する。

隔離期間終了後、営業再開するも稼働が伸び悩む傾向となる。

新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染症の発生並びに蔓延することを防止し、引き続き予防策の徹底や関係機関やご家族のご協力・連携を図りながら事業の継続を行う。

〔12〕居宅介護支援事業所

管理者 大阪一恵

1. 事業稼働の年間目標 年間平均利用登録者数：35名以上

対象年月	担当人数	要介護	要支援
令和5年4月	15	12	3
5月	15	13	3
6月	17	20	3
7月	23	26	3
8月	24	28	4
9月	22	18	4
10月	28	23	5
11月	28	23	5
12月	30	25	5
令和6年1月	28	23	5
2月	27	22	5
3月	25	20	5

＜令和5年4月1日～令和6年3月31日までの相談件数＞

- 令和5年4月 地域包括支援センターだいとう：1件
地域包括支援センターかすみ：1件
- 5月 地域包括支援センターだいとう：1件
地域包括支援センターにし：1件
- 6月 居宅介護支援事業所あさがお川越：8件
- 7月 地域包括支援センターだいとう：1件
- 8月 霞ヶ関南病院：1件
特別養護老人ホーム八瀬の里入所相談員：1件
家族：1件
- 9月 坂戸中央第二地域包括支援センター：1件
- 10月 特別養護老人ホーム八瀬の里入所相談員：1件
居宅介護支援事業所ケアグレース：1件
- 11月 本人：1件
家族：2件
霞ヶ関南病院：1件
- 12月 家族：1件
- 令和6年1月 地域包括支援センターだいとう：2件
家族：1件
- 2月 地域包括支援センターだいとう：1件
- 3月 なし

2. 認定調査委託業務：なし
3. 法人内委員会活動における参加
感染症委員会
改善会議

法人外研修：8月：認定調査員研修

10月：オンライン研修 2024年度介護保険改正・介護報酬改定最新動向と通所介護が
向き合うべき課題と対応策

2月：地域医療における緩和ケア（ZOOM）

2月：ケアプランスキルアップ研修 川越市役所介護保険課 認定担当

3月：川越市医師会 介護報酬改定説明会

ケアマネジャー情報交換会

6月：川越市高齢者虐待対応マニュアルについて

11月：認知症疑似体験（VR）

令和6年2月：ヤングケアラーについて

A series of horizontal lines, alternating between solid and dashed, providing a template for writing or drawing.

令和5年度 事業報告書

2024年（令和6年）6月1日 発行・印刷

監修・編集 社会福祉法人 芳清会

印刷・製本 社会福祉法人 芳清会

TEL 049-247-7311

FAX 049-247-7312

URL <http://www.houseikai-y.jp/>

E-mail yasenosato@houseikai-y.jp